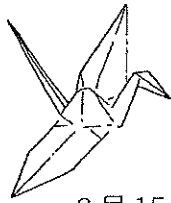


“平和”ってなんだろう



過去を学び、未来につなげる物語



8月15日は終戦記念日。夏は戦争や平和について考えることの多い時期です。突然ですが、みなさんに質問です。今日本は平和でしょうか。「平和だ」と思う人も、「平和ではない」と思う人も、もう一度“平和”の意味についていろいろな物語を通して考えてみませんか。

(文責：川辺)



イスラム教徒はみんなテロリスト!?
姉を爆弾テロで亡くした少年を救ってくれたのは、憎むべきイスラム教徒の少女だった。

『さよならスパイダーマン』
アナベル・ピッチャー作／中野怜奈 訳
借成社 1700 円＋税



イスラエルに暮らす少女が、パレスチナの若者に向け手紙を書く。やがてガザマンと名乗る若者からメールが届き、二人はお互いの気持ちでぶつけ合う中で少しずつ友情を育んでいくのだが……。

『瓶に入れた手紙』
ヴァレリー・ゼナッティ作／伏見操 訳
文研出版 1500 円＋税

恐ろしいのは偏見と正義の暴走——。
合宿の費用が何者かに盗まれた。警官の言葉をきっかけに、先生と生徒が一緒になって、あるイタリア人労働者を標的にした犯人追跡が始まる。



『泥棒をつかましろ!』
オットー・シュタイガー作／高柳英子 訳
童話館出版 1500 円＋税

独裁政権末期のドミニカ共和国。政府に抵抗する人々が捕らえられる中で、突然いとこの家族が亡命、おじも行方不明になり、さらには秘密警察が家にやって来て……。自由を求める戦いを見つめた少女の物語。



『わたしたちが自由になるまえ』
フーリア・アルバレス作／神戸万知 訳
ゴブリン書房 1500 円＋税



もし自分がヒトラーの子どもだったらあの戦争を止められたらどうか。もし父親がヒトラーと同じことをしようとしたら、自分はどうするべきなのだろうか? 主人公マイクの問いは、すべての読者に向けられています。

『ヒトラーのむすめ』
ジャッキー・フレンチ作／さくまゆみこ 訳
すずき出版 1600 円＋税



原爆投下は是か非か。現代アメリカの高校生8人が公開討論を通じて互いの意見を交換し、対立しながらも次第に考えを深めていく様子は、対話こそ平和の第一歩であると感じられます。彼らと同じ世代の若者たちに、ぜひ読んでほしい作品です。

『ある晴れた夏の朝』
小手鞠るい作
借成社 1400 円＋税

米国民権運動の歴史を学ばせながらの「MARCH」部作も!



ギャングが徘徊し、ドラッグが蔓延する黒人街で育った高校生の少女。幼馴染の少年が白人警官に射殺され、極悪人に仕立て上げられようとする中彼女は友人の汚名をそそぐため法廷で証言することを決意する。

『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ』
アンジー・トーマス作／服部理佳 訳
岩崎書店 1700 円＋税



◆歴史小説が教えてくれるもの◆



宗教の違いをこえて、人は愛し合うことができるか
『賢者ナータンと子どもたち』ミリヤム・プレスラー作
森川弘子訳／岩波書店 1900 円＋税

略奪や争いの時代に生きた清く賢い少年の話
『銀のうでのオットー』ハワード・パイル作
渡辺茂男訳／童話館出版 1400 円＋税

宗教や価値観の違いをこえて、真に正しい行いとは何か
『からすが池の魔女』E.G.スピア作
掛川恭子訳／岩波書店 2300 円＋税

◆私たちの社会を考える 「あしたのための本」全4巻◆



これは今の日本
社会に対する警告!!
よく読むのは、
批判的啓蒙です。

40年以上前にスペインで出版されたこのシリーズは、時代も国もこえて、社会についての大切なことが書かれた本です。正解はなにかではなく、一人ひとりが自分の頭で考えるために必要な気づきを与えられることが大切なのではないでしょうか。

『民主主義は誰のもの?』『独裁政治とは?』『社会格差はどこから?』『女と男のちがいで?』
ブランテルグループ文／マルタ・ピナ、ミケル・カサル、ジュアン・ネグレスコロル、ルシ・グティエレス
宇野和美訳／あかね書房 各 1800 円＋税